

第1回徳島新時代における防災情報発信検討会 議事録概要

- 1 日時 令和5年7月31日(月) 13時00分~14時10分
- 2 会場 万代庁舎 10階 特別会議室
- 3 出席者 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 金井委員
四国大学 経営情報学部 山本委員
日本放送協会徳島放送局 コンテンツセンター長 武市委員 (Web 出席)
四国放送株式会社 取締役報道制作局長 武知委員
株式会社エフエム徳島 営業部長 浜野委員
西日本電信電話株式会社 徳島支店 担当部長 門屋様 (代理)
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所 流域治水課長 道谷委員
気象庁徳島地方气象台 防災管理官 坂地様 (代理)
徳島市危機管理局 次長 吉田委員
美波町消防防災課 課長 前野委員
徳島県経営戦略部 秘書課 県政広報幹 玉岡委員
徳島県県土整備部 道路整備課 課長代理 佐古室長
徳島県県土整備部 河川整備課 課長代理 山本課長補佐
徳島県県土整備部 砂防・気候防災課 課長代理 吉田副課長
徳島県危機管理環境部 平井部長
徳島県危機管理環境部 森副部長
徳島県危機管理環境部 佐藤次長
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 鈴江課長
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 横山課長補佐
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 中野

4. 質疑応答

(A委員)

- 手入力しているとあるが、どういったところから解決していくのか。
- SNS で情報発信をする際に、平時から全員に届いているかチェックする必要がある。
- 情報提供の仕方について、何かしらのバリアフリー化を考えないといけない。

(事務局)

- すだちくんメール、LINE、ツイッターはシステム連携を取っていないので、その点を直していきたい。
- 情報弱者の方への伝達方法については、今後この会議の中で何か良い案があれば提案いただきたい。

(B委員)

- 市町村からの情報で、分かりにくい抽象的な文言があるので、聞いた人が分かりやすい表現になったら良いと思う。
- 徳島県のホームページ(安心とくしま)は、情報が奥深くにあたりすぎる。四国放送のホームページは、災害時に災害モードになり、

情報が見やすいところに出てくる。

災害時に最適化された必要な情報が見やすいところに出てくるとか、もうちょっと分かりやすくできないだろうか。

- SNS の発信については、傾向として一定程度の視聴者が離脱する、尺が長くなる程、離脱率が高くなる、ところがある。
防災情報を平時から送り続けられても関心があるのか疑問である。関心がない人をどうやって引きつけられるかというのも必要である。平時から情報を出し続けることについては、一つ工夫がいると思う。
- Lアラート情報が遅いと思う。県南3町の住民は恐らく逃げるしかない。我々では津波映像を放送し、逃げてくださいということは出来るが、それにプラスで県庁等から情報をもらえればより良いと思う。
- 検討会の取り纏めは11月末という事だが、非常に短い気がする。理由があれば聞かせてほしい。

(事務局)

- 取り纏めの時期を11月末としたのは、来年度予算へ反映したい意図がある。
- まずは出来るものからやっていく。

(C委員)

- 情報の出し方も変わってきている。
9月に入ったら臨時情報が出てくる。継続的に何かやってもらえるとありがたい。

(事務局)

- 検討する。様々なご意見について整理して、次回の会議等で検討して進めたいと思う。

(D委員)

- Lアラートについては、津波の時は時間がないので、防災行政無線でサイレンを流し、今すぐ逃げてくださいと伝えている。
- 避難指示が高齢者等避難になると、Lアラートを鳴らす前に避難所を開設する必要がある。避難所を開設してからLアラートを出すので、Lアラート情報が遅くなるのは理解いただきたい。

(E委員)

- 徳島県ホームページやツイッターを見たが、視認性が難しい状況。
- ツイッターで文字を見る時間は1秒しかないと言われているので、リンクを付けて、リンク先にイラストや逃げるための方法を付け、自分事として捉えてもらう事が重要。
- アルゴリズムを考えながら情報発信する。
(ハッシュタグを3つ以上付けるとトレンド入りしない等)
- 災害用と徳島県のツイッター、どちらも普段から使ってもらう必要があるのでは
(LINEも同じ)、災害以外のことでフォローしておいた方が良く
思ってもらう取り組みが必要。
- 津波については、何にしても、とにかく逃げる事を伝えなければならない。
自治体の方が市民や町民に向かって、逃げてくださいと言いつけることによって、犠牲になった事例もある。
NHKではボタン1つ押せば、逃げてくださいと流し続ける音声データを

開発しているので、興味があれば相談もらえると提供できる。

(事務局)

- ・視認性は検討会で議論していきたい。

(F委員)

- ・アプリはどうか。アプリだと通知が来るし、自分だけの必要な情報を意識せずに取りに行くことが出来ることが利点。

(事務局)

- ・高齢者や情報を見に行くことが出来ない人についても議論していきたい。

(G委員)

- ・情報発信のターゲティングが非常に重要。
プッシュ型の情報をいかに見てもらえる情報にするかというのは、自分に対しての情報だと意識していただく必要がある。
情報を細分化して、ターゲティングすることは難しいが意義が高まる。
- ・すだちくんメールで、個人毎の一番近い避難場所を示せたら良い。
- ・すだちくんメールの安否確認では、どうやって安否情報を確認しているのか。
- ・すだちくんメールで、避難場所に誘導していく仕組みを作ることが出来れば、役に立つのではないか。
- ・指定緊急避難場所と避難所の違いについて、中々認識いただけてないことが流域減災対策協議会のアンケートで分かっているので、認知を広めていきたい。

(事務局)

- ・今自分がいる場所から一番近い避難場所への避難は、一人一人いる場所が違うので、そういった機能は持ち合わせていない。
自分で一番近い避難所に避難してもらう状況である。
- ・すだちくんメールでの安否情報の確認方法は、管理者がホームページに入ると組織や会社の状況が一目瞭然で分かるようになっている。

(H委員)

- ・情報発信やプロモーションはどの程度行っているのか、これから実施していくのか。
- ・県外の家族が情報を見て、自主的に避難できる行動が取ることが出来れば良い。
- ・県外の家族が徳島県の情報を取ってきて、それを伝えることも出来るのではないか。
徳島県内だけの情報発信ではなく、県外にも発信していく必要が少しあるのではないか。

(事務局)

- ・8月から徳島県公式 SNS 登録キャンペーンを実施予定。
登録者数を増やすのは、LINE、ツイッター、すだちくんメール、フェイスブックで、特に LINE を重点的に増やしたい。
県職員は当然のこと、市町村、学校、イベント等での PR、企業・各種団体も訪問し、広めていきたい。
- ・県外の家族が防災情報を知ることが出来れば大変役に立つと思うので、登録キャンペーンをする際の参考にさせてもらいたい。

(I 委員)

- 自治体の課題として、避難所と避難場所の違いを理解されている方が非常に少ないことがある。
ハザードの種類や状況によって、いろいろ避難所・避難場所の違いがあり、それを発信すると長々となり、住民に届きにくくなる。
- 避難情報を出す時に、オーバートリプでも危険性・避難という部分を必要とするのか、正確な情報を必要とするのか、どちらが正解かは非常に難しいところである。
- 徳島市も県の公式 SNS のような情報発信を今年度から実施予定。
徳島市の場合、LINE にセグメント機能を付けて、住まいの地域の情報が飛ぶように来年度から実施したい。
ゴミの情報や子育ての情報等、市政情報の中に防災情報を紛れこませながら、かつ、避難情報も発信するシステムを作る。
徳島市の LINE の登録者数は約 90% くらいあり、県内だともっと増えると思うが、高齢者の中で取りこぼしが出てくる。そこで、総合防災訓練等でラジオを聞いてくださいという広報はしている。
- ながらでいろいろなことが出来るので、テレビもラジオも付けておいてくださいと、防災訓練で市民向けに周知している。
- 情報の多重化に合わせて、いろいろな世代の人が、いろいろな方法を取れるようにしているけれども、それでも中々市民には届かない。
これらの課題をこの検討会で一緒に考えていけたら良いと思う。

(事務局)

- 県の課題と似ていると思った次第である。

(J 委員)

- 地震、津波の場合は、Jアラートが自動起動して自動で放送する。
正確性よりも即時性である。
- 次回からは豪雨災害に絞って検討をお願いしたい。

(事務局)

- 次回からはそのようにする。